

2. まちづくり基本構想の基本的な考え方

■ 目的

高取町まちづくり基本構想は、町が保有する資源を最大限に活かし、さらに磨き高めることで、各地区が魅力ある地域へ発展していくことを目的に、基本的なまちづくりの考え方や今後の重点的な取組をとりまとめるものである。

■ 基本理念

地区の魅力を高め、住民が生き活きと暮らし、町全体が元気を取り戻せるまちづくりの推進

■ 基本方針

方針1：高取町の価値を次世代に引き継ぐ

高取町に今ある資源を維持し、その価値を高めながら、次世代に引き継ぎ、高取町のブランド力を高める

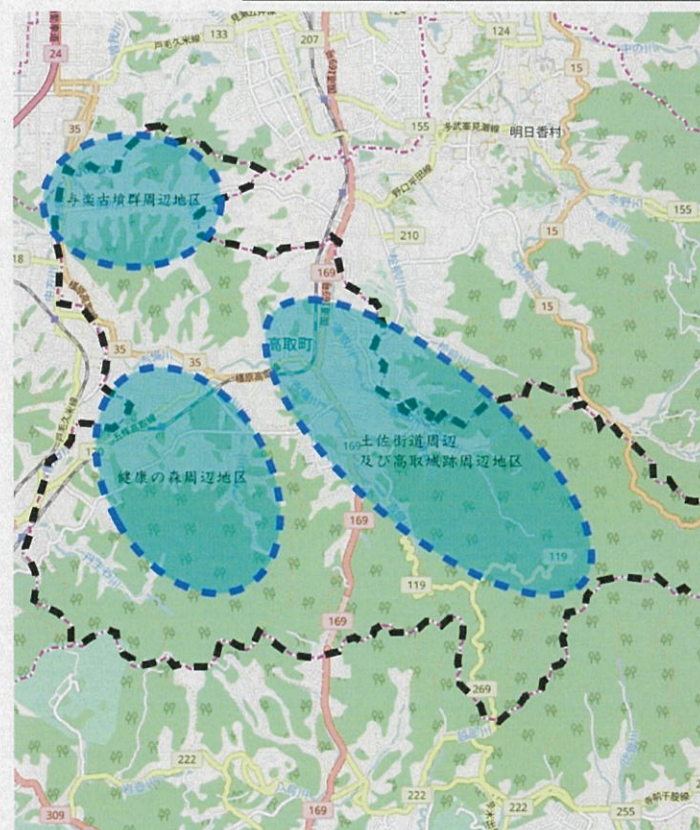
方針2：高取町の魅力向上

潜在的な高取町の魅力を発掘し、磨き高めていくことで、新たな高取町の魅力を創造し、高取町らしさ（アイデンティティ）を構築

方針3：協働・連携による取組

高取町の価値や魅力を町・町民・県で共有し、協働・連携で目標に向かって取組を進めていながら、来訪者や転入者が来てみたいと思う高取、町民が住み続けたいと思う高取のまちづくりを推進

高取町まちづくり位置図



© OpenStreetMap contributors
<http://www.openstreetmap.org>

〈図 高取町におけるモデル地区〉

3. 地区の概要

■ 上位計画における位置づけ

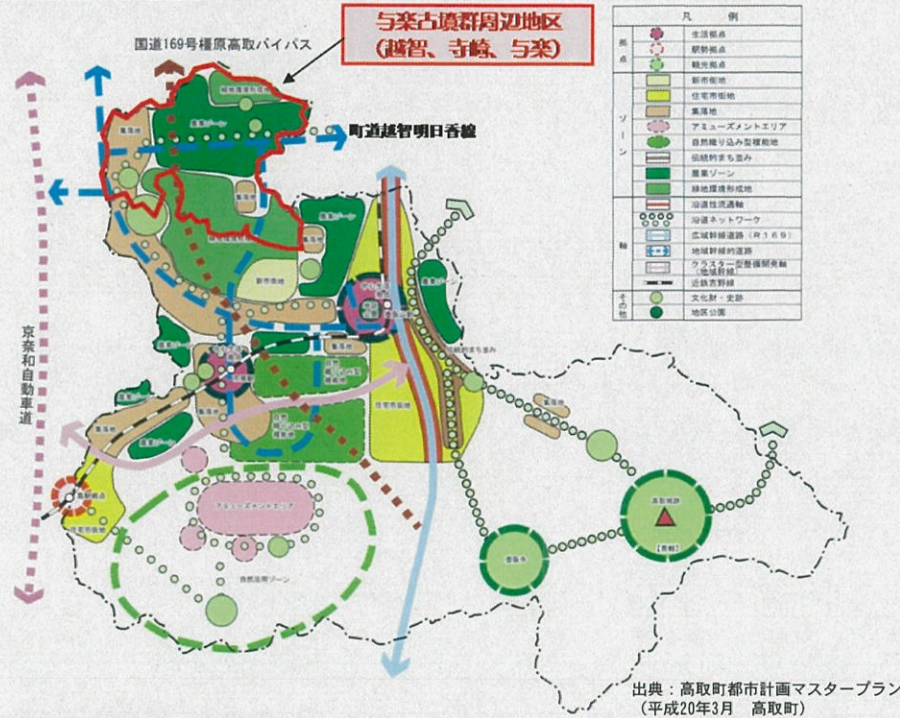
○都市計画マスタープラン（高取町、H. 19年策定）

◆全体構想

「集落地」：曾我川沿川や与楽公民館が立地する周辺

「農業ゾーン」：町道越智明日香線沿道周辺

「緑地環境形成地」：農業ゾーンの南北側



○奈良県自然環境保全条例

◆貝吹山景観保全地区

- 指定の目的：新沢千塚を中心とした古墳群並びに貝吹山を主峰とする森林及び丘陵により形成される景観の保全
- 区域：高取町大字寺崎及び越智の各一部、橿原市の一部
- 太陽光パネルも建築物として届出が必要。

⇒対象となる区域以外には適用されない。

また、届出制による行為の制限のみを定めており、耕作放棄地等（後述）の対策としては十分でない。

◆地域別構想

- 無秩序な市街化をくいとする「緑農ゾーン」とし、農業の振興及び景観などの保全を図る。
- 観光・レクリエーション拠点として、貝吹山周辺整備や地域に点在する貴重な歴史・文化資源などの周辺環境の整備とネットワーク化を図る。
- 景観では町道越智明日香沿道、集落周辺などにおいて、観光・レクリエーション施設や公共公益施設などを案内、誘導するための標示・看板などの設置を図るとともに、地域にふさわしい花を植え、フラワーロードを形成する。



※町道越智明日香線沿道は田園景観が広がるゾーンとして位置づけられている。

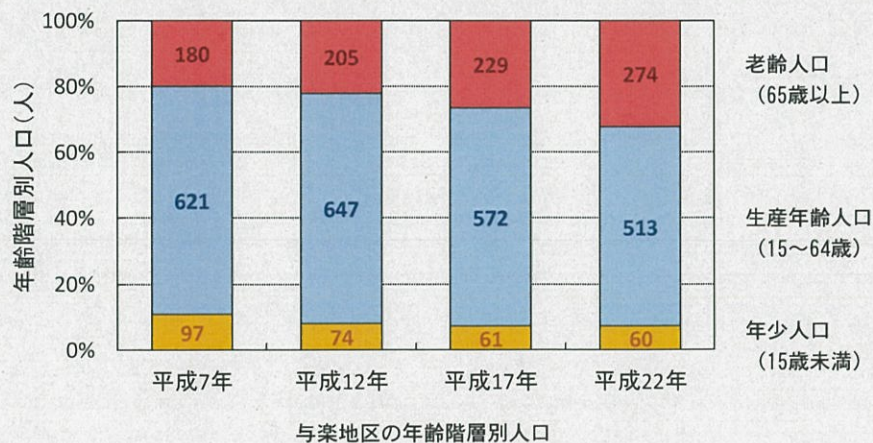
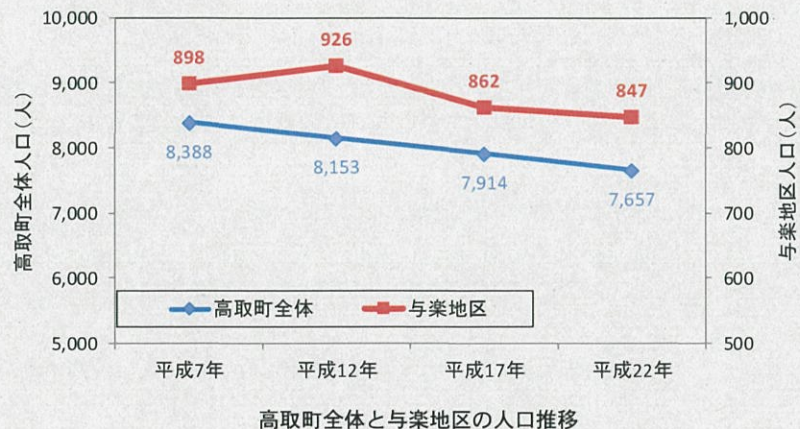
強み：農業振興地域として、まとまった優良農地がある。

弱み：景観保全地区の制度が景観の改善策として十分でない。

3. 地区の概要

■ 人口動態

- 高取町全体の人口は、平成7年以降減少傾向にあり、与楽地区の人口は、平成12年以降減少傾向にある。
- 与楽地区の年齢階級別人口は、高齢者の割合が増加傾向にあり、働く世代が減少している。

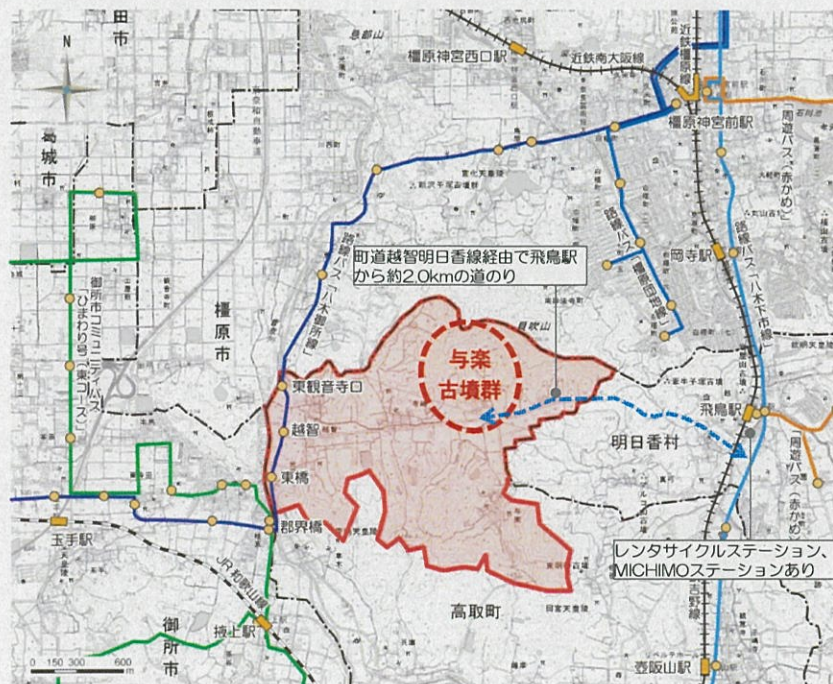


(国勢調査(平成7年~平成22年)データより作成)

脅威：人口減少、少子高齢化の進行

■ 周辺の公共交通について

- 鉄道
 - 対象地域周辺には鉄道駅がない。
 - 地域東側の明日香村に近鉄吉野線の飛鳥駅、南西側の御所市にJR和歌山線の掖上駅がある。
- バス
 - 区内を通るバスとして、地区西部(越智)に大和八木駅・橿原神宮前駅と御所駅を結ぶ路線バス「八木御所線」が運行。
 - 地区周辺では、御所市コミュニティバス「ひまわり号(東コース)」、「周遊バス(赤かめ)」、路線バス「八木下市線」が運行しているが、いずれも区内を通るルートはない。



(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

弱み：区内を移動する公共交通機関がなく、その他のアクセス手段も乏しい。

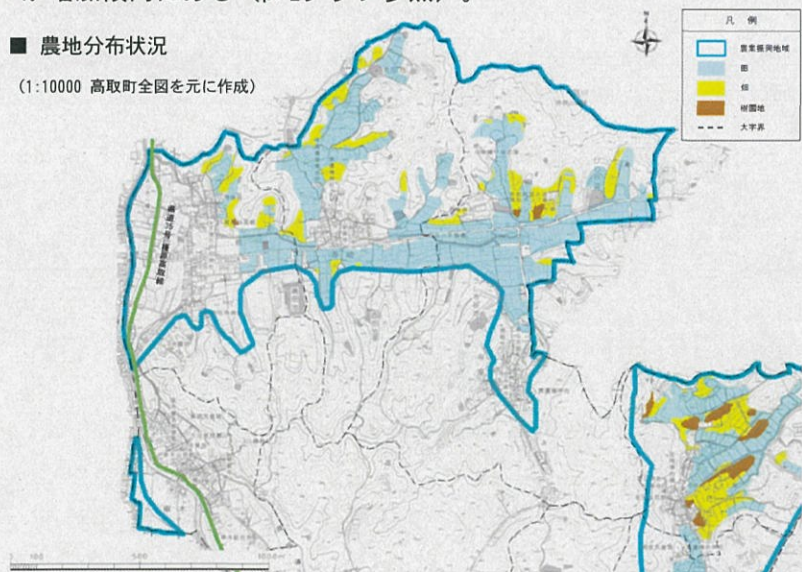
3. 地区の概要

■ 農地の現状

- 本地区は、町内で最大規模の農業振興地域（まとまった地域として）であり、優良農地がある。
- 低地に田が広がり、畑地がその上方に位置する特徴的な農業地域を形成している。樹園地は一部地域にある。
- 農業従事者の高齢化・減少に伴い、耕地面積が減少し、耕作放棄地が増加傾向にある（p.2グラフ参照）。

■ 農地分布状況

(1:10000 高取町全図を元に作成)



■ 地区の特産品

- 稲作主体である。畑地、果樹園では、かき、いちご、いも、葉物野菜など季節ものを提供。
- 観光目的に、食事を挙げたのはわずか6%（p.10参照）であり、高取の食や農に対する認知度は低いことが伺える。



明日香村の販売拠点



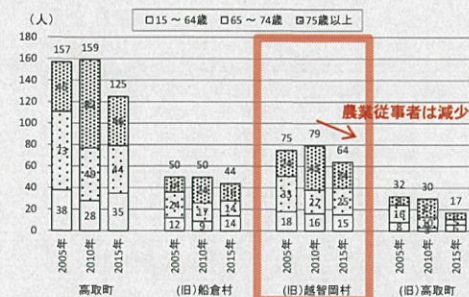
高取町農業祭の様子（営農寺崎HPより）

【ヒアリング・地域会議における新規就農者の意見】

- 高取町の農業のイメージがない。
- 高取町の特産品をつくる。
(例 大和当帰、黒豆、さといも、なす、ズッキーニ、いちご、米 等)
- 地区に農産物の販売場所がない。

■ 農業従事者の動向

- 75歳以上の人口推移は、どの地域も2005年から2010年にかけて増加し、その後2015年にかけて減少。
- 高齢化率は、他地域と同程度で、76~80%程度の高い数字で推移。



農業従事者の推移

※ 本地区は(旧)越智岡村の一部地域にあたる。
資料：2005年農林業センサス、2010年世界農林業センサス、2015年農林業センサス

- 高齢化に伴い、農業従事者は急激に減少。将来の継続的な営農困難が予想されるため、新規就農者の定着が必要。

- 新規就農者5人(町内6人中)が、寺崎(本地区内)で営農を開始しており、地区内に新規就農者を受け入れやすい環境がある。

【ヒアリング・地域会議における新規就農者の意見】

- 農地の近くに住みながら農業をしたいが、空き家がない。
- 使いやすい農地の提供してほしい。
- 町のブランド力を向上させると農作物も売れるのではないか。
- 高取町で統一した作物、販売システムを構築してほしい。

■ 営農寺崎の取組

- 「え〜のお〜らさき」(営農寺崎)は、集落営農グループとして2009年3月に設立し、遊休農地の解消のためにオーナー制度、研修会等により農業機械の共同化や地域農業の振興を実施。
- 将来の担い手作りをして10年後20年後も今ある農村風景の保全を目指す。



営農の様子
出典：営農寺崎HP

強み：農業振興地域として、まとまった優良農地がある。
新規就農者が営農開始し、農業従事者など地域の担い手候補がいる。
地域に新規就農者の受け入れ体制がある。

弱み：耕地面積が減少し、耕作放棄地が増加している。
高取町の農や特産品の知名度が低い。農作物等の販売拠点が少ない。
高齢化・人口減少が進行し、将来の継続的な営農困難が想定される。
新規就農者の定着が必要。

3. 地区の概要

■ 地区の景観特性

- ・ 与楽古墳群周辺地区は、貝吹山などの山地に囲まれた、山裾に広がる良好な田園景観を形成しており、与楽古墳群と合わせて本地区の代表的な景観を創出している。
- ・ 貝吹山周辺の寺崎、越智の一部は「貝吹山景観保全地区」に指定され、景観の保全が図られている。



地区を東西に貫く町道からは、貝吹山等の山地を背景とした田園景観を眺められる。



水田に囲まれた与楽子塚古墳
(古墳脇には、耕作放棄地あり。)



町道沿いのシンボル性の高い与楽カンジョ古墳
(手前に修繕されない資材置き場等あり。)

強み：古墳のある特徴的な田園景観が維持されている。
古墳が町道沿いに立地するため、認識しやすい。
(シンボル性がある。)

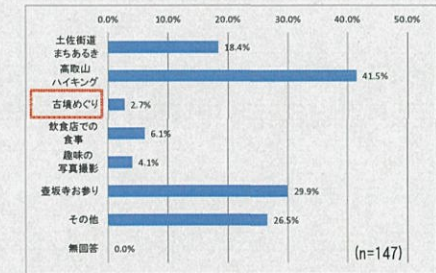
弱み：耕作放棄地や修繕されない資材置き場等が、田園景観の阻害要因となっている。

■ 観光動態の現状

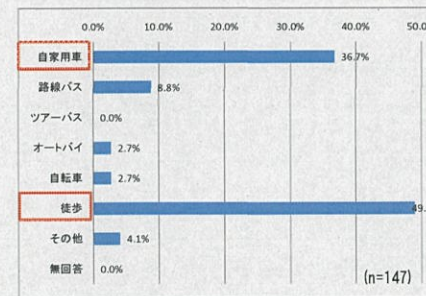
<観光アンケート調査結果>

- ・ 高取町への観光の目的として「古墳めぐり」を挙げた人は4人 (2.7%) に留まり、町内の古墳が十分に周知されていないと考えられる。
- ・ 高取町内での交通手段は、「徒歩」と回答した人が最も多く72人 (49.0%)、続いて「自家用車」が54人 (36.7%) となっていた。
- ・ 今回の旅行で訪れた先とこれから訪れる先は、「明日香村」が最も多く45人 (30.6%)、次に多いのが「橿原市内」で16人 (10.9%) であった。

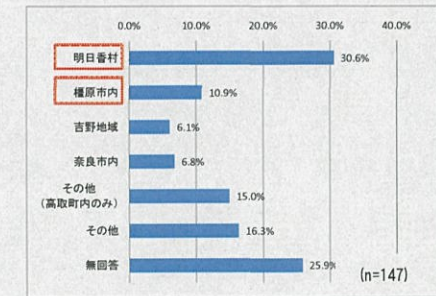
■ 高取町への観光の目的は何ですか。



■ 高取町内での交通手段を教えてください。



■ 今回の旅行で、訪れた先とこれから訪れる先を教えてください。



- ・ 日時：平成28年5月28日 (土) ・ 平成28年6月4日 (土) 8:30~15:00
- ・ 方法：調査票を用いて、調査員が観光客に対して対面でヒアリング調査を実施
- ・ 実施場所：夢創館、わくわく市場、砂防ダム、壺阪寺
- ・ サンプル数：147人

機会：明日香村・橿原市と合わせて訪れる人が多い。

弱み：古墳めぐりを目的として高取町に訪れる人が少ない。
地区内を移動する公共交通機関がなく、その他のアクセス手段も乏しい。(p. 8参照)